



2018/9/10 発売 発行元：株式会社近代建築社

掲載ページ：表紙、P172～173「むく保育園」 設計・監理／手塚建築研究所

サイン・ロゴ等／マルキンアド 担当：岡田英明、菅野麻衣、山岸エリカ



## むく保育園

静岡県富士市  
 設計・監理 / 手塚建築研究所  
 施工 / 佐藤建設  
 Muku Nursery  
 Tezuka Architects

上 / お椀をモチーフとした円形の各室が軒を介して渡れるように配置されている 左下 / 丘から見た外観。駿河湾まで一望することができる 右下 / 水遊び場で遊ぶ子どもたち

### 設計主旨

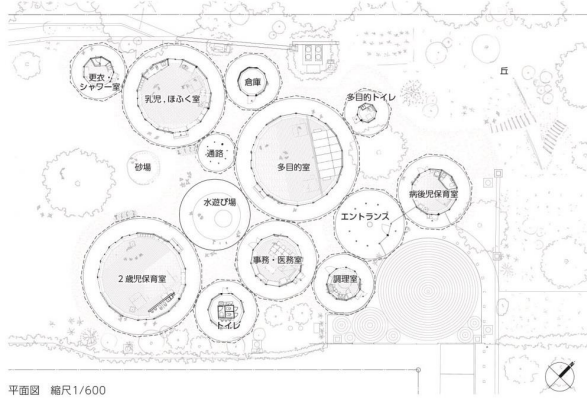
富士の麓に広がる保育園である。富士市にある富士山フロント工業団地でお弁当を生業とするひかり株式会社が企業主導型保育事業として運営している。この地域には子どもを預けられる保育施設が少ないため、むく保育園ができることで工業団地内の課題解決にもつながることが期待されている。

丸い形のイメージはお弁当に付属する椀のイメージから生まれた。丸い形の幼児施設については経験がある。最初はふじようちえんである。丸く行き止まりのない空間は、子どもにいつ果てるともしれない動きを引き起こす。ドーナツ型のふじようちえんに引き続き、スマイルエッグというふじようちえんを母体とする保育園で傘型の丸い空間も試している。今回違うのはその丸い形態が、幾つも連なっているところである。その数が引き起こす効果は選択肢である。ふじようちえんが究極の数字を表す零(0)であるのに対して、むく保

園は幾つもの回答を引き出す方程式であると言える。単純な形でありながら無数の視線や出来事を引き起こし収束することがない。全ての部屋の見通しが良い。丸には角がない。軒の間から敷地の端々まで空間が繋がっている。特に先生の部屋からの見通しは良い。席に座ると船の艦橋にいる気分になる。光の入り方には種類がある。外を巡るという計画の性格上軒は常に低く深い。よって大きな部屋ほど中に光は入りにくくなるから、軒の先端は光が透過するルーバー付きのガラスとなっている。特に大きな遊戯室の屋根は二重とし、中心部に光と風を取り入れている。屋根は銀色のガルバリウムで置かれている。この仕上げについてはかなり議論があった。模型の屋根はトレーシングペーパーでできている。いうまでもなくトレーシングペーパーは油紙が貼られた可憐な和傘をイメージしている。しかし現実の建物を油紙で作るわけにはいかない。テントの可能性も考えたが、断熱

性に難がある。散々考慮した末に銀色に輝くガルバリウムを選択した。検討時には銀色で丸いので何か不思議な材料が入っているタンクに見えるのではないかと懸念も議題に挙がった。確かに工場が立ち並び一帯であるから、そう見える可能性もある。上から見下ろせばなおさらであろう。しかし完成を迎えてそのような懸念は吹き飛んだ。ガルバリウムは空を写して富士の麓にあたかも昔から生息してきた植物のように溶込んでいると思う。構造は合理的である。丸く持たせ合う片持ち梁である。しかし言うは易く行うは難し。真ん中の吊り束の部分には沢山の梁が集中する。ここに円盤でも入れれば簡単なのだろうが、それでは合理性が失われてしまう。一棟目の建て方はかなり苦労することになった。しかし一度手順を覚えればあとは全て同じ。二棟目以降は実に順調に手戻りなく進んだ。今後プロトタイプとして展開が期待される。(手塚貴晴+手塚由比/手塚建築研究所)





平面図 縮尺1/600



断面図 縮尺1/600



上/足洗い場を見る  
下/屋根が折り重なり、軒下が連続することで廊下として利用することができるようになる



遊戯室内観 各部屋は中心に柱のない持たせ合いの構造でできている。建築全体の回転を妨ぐために壁もしくは方柱を円周部に足している



乳児ほふく室内観 昼食やおやつを食べているときも壁に外を感じることができる。



**手塚 貴晴**……てづか たかはる  
1964年東京都生まれ。1987年武蔵工業大学卒業、1990年ペンシルバニア大学大学院修了、1990～94年リチャード・ロジャース・パートナーシップ・ロンドン勤務、1994年手塚由比と手塚建築企画を共同設立(97年手塚建築研究所に改称)。現在、手塚建築研究所代表、東京都市大学教授

**手塚 由比**……てづか ゆい  
1969年神奈川県生まれ。1992年武蔵工業大学卒業、1992～93年ロンドン大学パートレット校(ロン・ヘロンに師事)、1994年手塚貴晴と手塚建築企画を共同設立。現在、手塚建築研究所代表、東海大学非常勤講師

**むく保育園 データ**  
所在地 静岡県富士市大淵3800-9  
主要用途 保育所(企業主導型保育園)  
建築主 ひかり株式会社  
設計・監理 手塚建築研究所  
担当/手塚貴晴、手塚由比、矢野健太 監理:矢野健太  
構造 オー/JAPAN 担当/大野博史、藤本 晋  
設備 Office May 担当/人見ようすけ、南 佑弥、大島正巳  
外構 10景 担当/石川圭一  
照明 ぼんぼりひかり環境計画  
担当/角館まさひで、竹内俊雄  
サイン・ロゴ等 マルキンアド  
担当/岡田英明、菅野麻衣、山岸エリカ

**施工** 佐藤建設 担当/軽石真穂、児島武雄  
**設計期間** 2016年11月～2017年6月  
**工事期間** 2017年7月～2018年2月  
**[建築概要]**  
敷地面積 5,487.99㎡  
建築面積 537.19㎡  
延床面積 403.51㎡  
建ぺい率 9.79% (許容60%)  
容積率 7.35% (許容200%)  
構造規模 木造 地上1階  
寸法 最高高さ/4.97m 軒高/2.97m  
道路幅員 西12m  
駐車台数 23台  
地域地区 市街化調整区域、岳南広域都市計画区域、法22条区域、用途地域なし  
**[施設概要]**  
定員 0～2歳児33人  
1クラス面積 0歳児10.15㎡、1歳児40.49㎡、2歳児75.75㎡  
**[設備概要]**  
電気設備 受電方式/高圧受電方式  
空調設備 空調方式/空冷ヒートポンプ方式 熱源/電気  
衛生設備 給水/直結方式 給湯/電気給湯器 排水/合流方式  
防災設備 消火/消火器、自動火災報知設備 排煙/自然排煙  
特殊設備 浄化槽設備

**[主な外仕上げ]**  
屋根 SGL板金平置き  
外壁 ジョリパッド左官仕上げ  
建具 木製建具ニヤトー材  
外構 フェンス・スチール製作門扉  
**[主な内仕上げ]**  
多目的室、乳児ほふく室、2歳児保育室、事務・医務室、病後児保育室、調理室(配膳室)、多目的トイレ・トイレ、シャワー休憩室、倉庫 床/キリ材フローリング、各室トイレ・シャワー室脱衣所・倉庫:長尺塩化ビニルシート 壁/構造用合板現し、シャワー室:FRPの上 トップコート 各室間仕切り壁/ラワン合板、ラワン無垢材 天井/木現し  
エントランス棟、廊下棟 床/コンクリート土間たたき 天井/木現し

撮影/近代建築社(トロッタジコ 植村カカシ)

協力会社

電気設備工事	鈴木電気商会
機械設備工事	大石設備
仮設工事	神山組
型枠工事	木内組
土・外構工事	フゲン
鉄筋工事	杉山鉄筋工業
金属屋根工事	カネナメ
防水工事	スエヒロ工業
木製建具・家具工事	飯田木工
木工工事	大友工業



むくほいくえん

mukuhoiikuen

参考

ロゴデザイン：マルキンアド